

諫早市教育委員会議事録
令和 5 年第 5 回（4 月定例）

令和5年第5回（4月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和5年4月26日（水）
15時00分～16時20分
- 2 場 所 諫早図書館 2階 視聴覚ホール
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 田島 正孝
教育総務課長 江頭 大一
学校教育課長 田上 顕二
生涯学習課長 竹島 健吾
- 5 議題
報告第6号 臨時代理の報告について（諫早市学校運営協議会委員の委嘱について）
報告第7号 臨時代理の報告について（諫早市少年補導員の委嘱について）
議案第10号 諫早市教育支援委員会委員の委嘱について
議案第11号 令和6年度使用小学校教科用図書の採択に関する基本方針等について

1 5 時 0 0 分開会

議事録署名人の指名

中野委員と小野委員を議事録署名人に指名

教育長職務代理者の指定

山口委員を教育長職務代理者に指定

議事の非公開

報告第 6 号、報告第 7 号及び議案第 1 0 号については人事案件であるため非公開

議事録の承認

令和 5 年第 4 回（3 月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

まず、入学式が 4 月 1 0 日中学校 1 4 校、1 1 日小学校 2 8 校において行われた。令和 5 年度の入学式は、保護者、来賓等に出席いただき、それぞれの学校において挙行された。

今年度の諫早市の小学生は、1, 2 0 7 人で昨年比 1 8 人増である。中学生は 1, 1 4 8 人、これも昨年比 1 4 人増ということで、

新入生は、昨年よりも多く入ってきた。希望に胸を膨らませて、担任や級友との運命の出会いを果たしたということである。

今年度の全小・中学生は、10,857人で昨年が10,847人なので10人増えている。単年度だけかもしれないが、人口減が続いている中で少しでも増えたということは、非常に心強く、明るい話題になるのかなと思う。

次に、学校改革について小長井地区自治会で説明をしている。学校改革準備室は、令和4年度に小長井地区で17回の懇談会を行い、延べ121名の方に参加いただいた。諫早市全体を俯瞰し検討を行いながら、小長井地区については懇談会を行ってきた。本年4月から「学校改革推進室」と名称を改め、その第1弾として、4月16日日曜日、23日日曜日の両日、学校改革推進室及び各課長等が小長井地区の7ヶ所の自治会総会に参加し、今後の改革の方向性について丁寧に説明を行った。詳細については、後ほど教育総務課長から報告させていただく。なお、21日の金曜日に小長井ナビ企画提案発表会というものがあった。これは今日の長崎新聞にも載っていたけれども、小長井を発展させるために中学生を含めた若い人たちが、いろいろな提案を発表するもので、市長や副市長、県の関係者、市の関係職員等が参加し、私も参加したのだが、具体的な提案で非常に良かった。そういう若い人たちがいるところで学校改革をしていけば、非常に良いものができるのではないかというふうに思った。

3番目、校長会での教育長説示について。4月13日に年度初めにあたり、私からいろいろな話をしたけれども、特に不易の部分、時代が変わっても変わらないものということで、「豊かな人間教育」を第1に掲げ、挨拶であるとか感謝の心、気遣い、そういった人間教育をしていこう、豊かな人間教育をしていこうという話をした。

やはり、挨拶できる幸せということを書いているけれども、朝起きて自分の家族とか愛する人と挨拶を交わすというのは、常に素敵なことだなというふうに思うし、挨拶は自分からといったようなことで、先生方においても子供が挨拶するから挨拶するのではなく、自分から子供に挨拶をしてほしいとの話をした。また、気遣い、相手の心を慮る、察知する心を養ってほしいとも伝えた。

最近思うのは、勝者は敗者に優しい心遣いが大事であり、相撲なんかを見ていると、土俵から突き倒してさっさと帰ってしまい、勝てばいいのだろうと、そうではなく土俵下にいる敗者に対して手を差し伸べてみたいな、そういう気持ちも大事な事かなというふうに思う。

それから、確かな学力の向上について、学校を挙げて学力向上を

目指しましょうということで、教育委員会の中でも学力向上対策チームを作っている。そこからのメッセージを各学校に送っているの
で、具現化してもらうように話をした。学力向上のためには、普段
の基本的生活習慣が大事であり、早寝早起き朝ご飯、規則正しい生
活というカリズムを整えて生活することが学力向上に繋がる。ま
た、そのためには家庭でのメディアコントロールも大切である。

そして、タブレット端末におけるデジタル教科書の有効活用につ
いて、今、デジタル教科書は国語、英語、算数、数学、理科、社会
の全教科、他の市町よりも入れている。タブレット端末については全
員が持っているので駆使して活用をしている。ただし、紙の教科書
やノートに書くことも大事なことで、忘れないようにしながら
両方の良いところ取りをしながら実力を養っていきましょうという話
をしている。

4 番目、市町村教育委員会連絡協議会理事会が、19 日佐世保市
総合教育センターで行われ、中野委員とともに私も出席をした。会
務報告などが行われたが、これは一昨年まで4 年間、諫早市が事務
局をしていた。諫早市が事務局の時はコロナ禍の中で、ほとんどが
制限されながらであったため、このように開催ができることを羨ま
しく思った。

全ての市町の教育長、教育委員の皆さんが揃った会議であった。
今回は理事会であったが、今度は令和5 年度総会及び合同研修会が
5 月29 日アルカス佐世保で予定をされている。教育委員の皆様
のご参加をお願いしたい。13 時から総会で、その総会の中で表彰伝
達があるのだが、これは全国市町村教育委員会連合会表彰というこ
とで7 名の方が表彰される。宮本峻光前教育委員もその中の1 人
として表彰を受けられる。その後、午後2 時45 分から4 時まで分科
会があるので、この後、教育委員の皆様には参加いただく分科会
の希望をお聞きすることになっている。

5 番目、第1 回県都市教育長協議会が20 日、長崎市役所であ
った。いろいろな議事があり役員選出も行われた。県の教育委員会に
教員の加配等を要望する小委員会というものがあるが、長崎市、佐
世保市、五島市の教育長とともに私が選ばれ、昨年についでの再任
となった。県の教育長に直に要望等を行う機会ということで、これ
は非常に大事な会というふうに思っている。頑張りたいと思う。

また、全国都市教育長協議会総会並びに研究大会が、令和6 年5
月8 日から10 日、長崎市において行われる。全国の教育長の大会
になるので、相当な人数になり大がかりなものとなる。場所は、ホ
テルニュー長崎、出島メッセとなり、同時に九州の都市教育長協議

会の定期総会も開催される。そのための準備を今年度から開始するというので、私も実行委員に選ばれた。その準備も兼ねて、来月、北海道の帯広市で開催される同じ大会を都市教育長全員が視察をするということで確認をされた。その大会を参考にしながら、長崎大会を盛り上げていきたいということである。

都市教育長会議の意見交換では、県教育委員会の説明等もあったけれども、特に、中学校の休日部活動の地域移行について、各自治体の進捗状況等が確認された。どこもほとんど諫早市と変わらないような状況であるが、遅ればせながら少しずつ形になってきているのかなと思う。諫早市としては、今、検討会において検討を重ねているところだけれども、できる競技からしていこうということで、令和8年度ぐらいから開始できればというふうに考えている。なお、今度の中総体からクラブチームが中体連に出られるということで、参加するチームがあるのかなと思っていたら、いくつかのクラブが参加するようである。

翌21日は、令和3年に開館した野母崎にある長崎市恐竜博物館を視察した。野母崎というと、青潮学園という小中一貫校を作るぐらい人口が少ないところになるが、そこに恐竜博物館と大きな広場、大型バスが何台も入れるようなところがある。当初は、1年間で12万人ぐらいの来館者を予定していたそうだが、コロナ禍でありながら実際には30万人ぐらいの方が来られたようである。また、いろいろ聞いたところ、野母崎が過疎地域に指定されていて、過疎債を使って恐竜博物館を作られている。小長井地域も過疎地域に指定されているので、そういった面では、やり方によっては、小長井も盛り上げていくことができるのかなと、私は意を強くしたところである。非常に参考になった。

6番目、諫早市少年少女発明クラブについて、小学校の4年から6年の児童35名と保護者、来賓が参加して、22日に開校式が行われた。私からは激励の言葉として、ノーベル化学賞の下村脩博士のことについて少し話をした。下村博士とは、諫早高校の校長をしているときに何回もやり取りをしたり、一緒に食事をしたり、学校に来てもらって講演をしてもらったりしたので、そういった内容の話と、将来のノーベル賞を目指して頑張ってもらいたいと話をした。

この発明クラブというものは、長崎とともに県内に2つしかないそうなので、そういうことをするという事は非常に大事なことであり、諫早市の教育の奥深さみたいなものを体験させていただいた。修了生の中には、発明協会賞に輝いた人もいるそうで、来年の2月まで1年間活動するということである。教える人は、ある程度の知識や

経験を積んだ素晴らしい人たちが教えるので、子供たちにとってもいい機会になると思う。以上が私からの報告である。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

3点あるが、「豊かな人間教育」について、コロナ禍で声を出すことが制約を受けたこともあって、挨拶とか感謝の気持ちを声に出すことが非常に苦手になった子供たちが多いかと思う。だから、言葉に出して人に感謝を伝えるということは、これからアフターコロナを見据えて本当に大事にしていかなければいけないなと思った。

2点目、タブレット端末と紙の教科書の併用について、もちろんどちらも大事という面もあるのだが、成長期の子供にとって視力の低下以外にも、光刺激を長く浴び続けることで非常に重篤な問題が出るのがNHKでも実証され問題になっているので、そういう健康面からも併用をしっかりと進めていただければと思っている。

最後に3点目、中学校の部活動のことだけれども、先ほど教育長から今度の中総体に関してクラブチームが20チームほどというふうな話があったが、現状をもう少し詳しく教えていただければと思う。

[教育長]

今、3点述べていただいたけれども、1点目はその通りであると思う。

[学校教育課長]

タブレット端末画面を見て目に影響があるということは、特にスマートフォンを夜遅くまで見ていると、夜眠りにつけなくなるという形での健康障害等もあるので、改めて校長会や研修会等で確認していきたいと思っている。

もう1点、中総体については、詳細が手元にないので、後ほどお伝えしようと思うが、概要としては、県の中総体に出たいと申請をしてきているところが、県下でA4の表1枚程度に出ている。実際に、クラブチームとして立ち上がっているものはもっとあると思うが、その立ち上がっているクラブチームの中で申請をしているチームがA4の表いっぱい出てきているということで、学校教育課の担当職員も最初にしては結構な数の申請に驚いていた。今年がそうであれば、また来年以降は増えていくのではないかと考えているところである。

[委員]

クラブ活動について、今年の中総体からクラブチームの参加でき

るということではいろいろあるのかなと思っているのだが、校長会で教育長が言われたという気遣いに関して、勝者の敗者に対する優しい心遣いについて相撲の例を挙げられて言われたけれども、どうしてもイメージ的にクラブチームでは勝利至上主義、やはり勝ってなんぼというか、どれだけ優勝者を出したとか、そういうイメージがすごくあり、勝つ分にはいいのかもしれないけど、試合に出られなくてもしている人もいる。クラブとなるとそこがあると思うので、学校の教師の方にも入ってもらって、勝利至上主義ではなく運動、部活動をやることが大切だということも、しっかりと教えてもらえるようなクラブに参加してほしいと、私は個人的には思う。勝つことがなんぼになりやる気を失くさせてしまうことと、やる気を起こさせることは違うと思うし、希望として学校も入ってほしいなと思う。

[学校教育課長]

そこは学校教育課でも非常に危惧しているところで、受益者負担で保護者がお金を出すのだから我々で考えてやるのだということで、勝利至上主義に陥る可能性もあると思う。今、部活動の地域移行の会議を複数回行ったところだが、その中でも学校教育課や行政において、子供たちを中総体などの大会に出すようなクラブチームを立ち上げるためには、特にこういうふうなことに気をつけて行ってくださいというようなアプローチをすることはできないかということを考えている。どの市町もおそらく同じようなことだろうと思うし、県の中体連もそのことは危惧していると思うので、声を上げていきたいと思っている。

[教育長]

私も全く同感である。やはり学校教育の一環として部活動はあったわけで、行き過ぎた指導や勝利至上主義等に過熱することがないように、様々な面で協力を得ながら進めていかなければいけないと思っている。

[委員]

小学生と中学生の数についてだが、諫早はほとんど変わっていない。就学時検診をずっとさせてもらっているけれども、小学校1年生と中学生1年生の数はほとんど変わらない。去年は小学生の方が中学生より多かった。今年も多く諫早ではずっと少子化はしてないのだが、国は少子化を前提に全部施策をしてくる。しかし、諫早もコロナが流行して出生率が落ちている。1,000ぐらいだったのが800台ぐらいまで落ちている。だから、おそらく3、4年後に児童生徒数がガクッと減る。多分、それは一時的なものであろうと

思うが、児童生徒数がガクッと減ったときに、このまま減っていくものだということで施策が行われるのではないかと少し危惧しているところである。

[教育総務課長]

児童生徒数の動きについて、中心部の大規模校においては増加が続いている学校がありながら、どうしても周辺地域の学校においては、減少が進んでいるのが現状であるというふうに我々は捉えている。

[委員]

もう20年前から、国は子供が減っていくものだとして、幼稚園や保育園を作りすぎると将来余ることになるから作るんじゃないみたいな感じなので、そのツケが今頃回ってきているのだろうと思う。保育士についても、保育園では年齢が大きな子は保育士1人で30人を見ている。小学校の児童数から考えると、保育園の子を1人で30人見ることは冗談ではないと思うけれども、1948年ぐらいに決まった基準がそのままずっと続いていて全然増えてない。そういう保育園を増やさないとか保育士1人で見ることができる子どもの数は減らさないとかいう国の施策があまりにもどうなのだろうと感じたところである。

もう一つ、早寝早起きについてであるが、やはり早寝がないと早起きできないというのが大原則である。実は、私の孫が福岡で小学校に行っていて、校門が7時50分にならないと開かないそうで、7時50分まで校門の外で待っていると言っていた。諫早では7時前から学校に登校している。私が大体7時半頃に家を出るのだが、その頃にはもうぞろぞろと登校しているから、多分7時50分にはほとんどの子が登校していると思う。昔と比べれば登校時間は明らかに早くなっているんで、そうであれば寝る時間が30分以上早くなっていないと辻褄が合わない。だから、その辺がいかげなものかと思っている。

《議題》

議案第11号 令和6年度使用小学校教科用図書の採択に関する基本方針等について

学校教育課長 説明

《学校教育課長の説明に対する質問・意見》

[委員]

諫早市は最初にデジタル教科書を踏まえて選択したと思うが、今回の方向性的にも同様にということで考えてよいのか。

[学校教育課長]

デジタル教科書は購入していくことになるが、ここでは紙の教科書の採択についてということになる。

[委員]

会社によっては、デジタル教科書を出している、出していないがあるのか。

[学校教育課長]

あるかもしれないが、現在はＩＣＴ教育が進んでいるので、大体どこもデジタル教科書を出しているものと考えている。

原案可決

《各課長からの報告》

令和５年度 諫早市教育施策について

《各課長の報告に対する質問・意見》

[委員]

学校教育課と生涯学習課に希望と質問である。まず、不登校に関することで、不登校児童生徒増加の要因分析と対策とあるが、低年齢化が非常に大きな問題にもなっているかと思うので、そのところにも強く着目をしてもらえればと思う。

次に、生涯学習課への質問で、ふれあい学級というのは少年センターの方で行っているという説明があったけれど、先ほどの質問とも関係するのだが、小学生は通うことができるのか。もし、通えないのであれば小学生の不登校の受け皿は、少年センター以外にどこかに設置してあるのかをお尋ねしたい。

生涯学習課に関してあと２点あるが、地域未来塾を今年度から推進するということであったが、どこにアナウンスをしているのかや手を挙げているところがあるのかといった現状を教えていただきたい。

最後に、公民館事業の推進について、やはり公民館と言うと高齢者向けというイメージがあるかと思うけれども、説明の中でも全世代というようなこともあったと思うので、特に、大学生や若者世代の講座を作っていただきたい。そうすれば、将来大人になってその地域に暮らした時に、大学生の子供たち、高校生の子供たちが公

民館の利用の仕方を分かっていると、大人になって今度は子供を連れてきて一緒に講座を作るとかいう良い連鎖が出てくると思うので、そういう若者世代をターゲットとしてアプローチをしていただければと思っている。

[学校教育課長]

不登校については、年齢を問わずに関わっていく必要があると思うので、十分に吟味して要因分析と対策を行っていききたいと思う。

[生涯学習課長]

ふれあい学級については、小学生、中学生共に通うことができる。外へ出てこられない子供については、メンタルフレンドによる家庭訪問を実施しながら、外に出てこられるような環境作りをしていくという取り組みを行っているところである。

それから、地域未来塾については、今年からの中学生を対象とした新たな事業で、今、2ヶ所で開設の話を進めている。1つが飯盛地区で、飯盛ふれあい会館を利用して新たに開設する形で支援を行っているところである。もう1ヶ所は中央公民館で、以前バスターミナルで塾をされていた方に声をかけ、中央公民館を利用して開設するように支援を行っているところである。この2か所を今年度予定している。

公民館については、地域課題や地域の人々のニーズを的確に把握し、現代的な課題等を取り上げた講座を開催するために、どのようなカリキュラムを組んでいくかということについて一緒になって研究を行っているところである。確かに、ご婦人やご高齢者の方が参加は多いが、男性や若い方が参加できるような内容の講座も作るような努力をしているところである。

[委員]

先ほどの地域未来塾、地域子ども教室の件であるが、去年、社協かどこかでしていたと思うのだが、あれは違うものになるのか。

[教育総務課長]

言われたものかどうかははっきりしないが、子育て支援課で取り組んでいるのが、母子家庭のお子さんを社協の方で毎週土曜日とかに勉強を見るような事業をしていたのではないかと思う。

[委員]

図書館の問題でいくと、今、会議しているこの視聴覚ホールの設備が使えない状況だが、予算は上がってこないのか。

[生涯学習課長]

備品購入の予算確保については、毎年継続して要求をして、できるところから入れ替えていっている。何か財源があればそれを使っ

で一氣に買い替えるという方法もあると思うけれども、いろいろな施設でいろいろな備品があるので、予算要求をしながら快適に使える環境整備をしていきたいと思う。

[委員]

最近、不登校の子で発達障害があり、限局性学習症を合併している子が少し目立っており、限局性の学習症を合併しているのかなと思って診ると意外と合併している子がいる。今、ICTがどんどん進んでいて、学習障害がある子用のプログラムとかいっぱいあるのでそういうものを使うと、先生たちの個別指導がそこまで負担にならずにできる可能性が出てきた時代になってきたのではないかなと思う。だから、通級指導教室で授業を受ける場合など、今まではマンツーマンでしていたようなところで積極的に活用してもらおうと良いのではないかな。全然できないということでは学校が面白くないし、行きたくないだろうなという子がいるので、ICTを活用してもらおうと、今までよりは随分できるようになるのではないだろうか。

[学校教育課長]

学習障害も、話を聞くのはものすごくいいとか、話すのは全然問題ないけど読むのが苦手であるとか様々な形があるので、是非とも検討していきたい。

《学校教育課長の報告》

- 1 令和5年度 諫早市学級編成児童生徒数について
- 2 令和5年度 諫早市小学校・中学校運動会・体育大会実施予定について

《学校教育課長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

《非公開議事》

報告第6号 臨時代理の報告について（諫早市学校運営協議会委員の委嘱について）

学校教育課長 報告

削除

了承

報告第 7 号 臨時代理の報告について（諫早市少年補導員の委嘱について）

生涯学習課長 報告

削除

了承

議案第 10 号 諫早市教育支援委員会委員の委嘱について

学校教育課長 説明

削除

原案可決

その他

教育総務課長

- 1 小長井地域説明会報告（学校改革推進室）について説明
- 2 定例教育委員会の日程について説明
- 3 長崎県市町村教育委員会連絡協議会総会及び合同研修会について説明

16時20分閉会